

1 学校教育目標

- 進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身に付けさせる学校 ○学ぶ楽しさや喜びを味わわせる学校 ○豊かな人間性を育む学校 健やかな心身をはぐむ学校 ○家庭・地域と協同する学校
○児童・生徒像	○主体的に学び、自分の考えをもち、表現する子供 ○豊かな心情をもち、互いに認め合い、高め合う子供 ○心身ともに健康でたくましい子供 ○何事にも意欲的に挑戦し、粘り強く努力する子供
○教師像	○児童に寄り添いよさを認め、励まし、一人一人の力を伸ばす教師 ○専門職としてすぐれた指導力をもち、意欲的に研修に励む教師 ○教育課題に適切に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〔学校の現状〕

○ 児童について

明るく元気な児童が多い。登校班や縦割り班活動を通じて、他者を思いやる心も育ってきているが、高学年になるにつれて着帽や名札を着けるという学校のきまりが守れない児童も少数いる。学力の個人差が大きく、基礎的・基本的な学力の確かな定着と、思考力や読み取る力、学習意欲の向上が課題である。

○ 教師について

熱心に指導に当たる教員が多いが、本校初任者もしくは教師経験10年未満の教員が多く、指導力の向上が大きな課題である。

○ 保護者・地域について

登下校の見守り、学校の教育活動への協力など大変熱心に活動してくれる。一部の保護者には、家庭学習の軽視など課題を抱える部分もある。

〔前年度の成果と課題〕

○ 学力向上

区学力向上のための調査における経年比較では、毎年、通過率が向上している。しかしながら今年度4月の調査結果では、当初の目標値である2科74.5%、国語71.3%、算数77.8%（26年度区平均値）を上回ることができなかった。（通過率が2科72.0%、国語67.0%、算数77.0%であった。）12月の再テストでは、通過率が2科76.1%、国語75.7%、算数76.4%であり、2科計と国語は目標値を上回ることができた。算数はわずかに及ばなかった。

基礎的・基本的学習内容の定着が不十分な児童に対する指導が課題である。さらに個の実態に応じた指導の展開を図る必要がある。

○ 豊かな心の育成

学校評価アンケートでは、「道徳を重視し、思いやりの心を育てているか。」というアンケートに対し、87%の保護者が肯定的（A・B）な評価をしている。児童も「友達の嫌がることをしないように心がけていますか。」というアンケートに対して、90%が心がけていると答えている。A・B評価の数値目標である86%を越えることができた。

いじめの可能性があり、保護者対応がこじれた事案が1件あった。個々の教員の指導力を高めると同時に、学校の対応力も高めていく必要がある。心ない言動を取る児童がいるので、さらに豊かな心の育成のための指導を充実させていく。

○ 体力の向上

東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査において体力合計点で、3年男子、3年女子、5年女子は都平均・全国平均を下回ったが、1年男子、6年男子、4年女子、6年女子では都平均・全国平均を上回った。その他の学年でも都平均を上回っている。

積極的に運動に取り組む子の育成を図る。そのために、児童の興味・関心を喚起し活動意欲を高めるような場の工夫を引き続き行っていく。特に、男女ともに都・全国平均を下回る3年生のてこ入れを図る。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		26	27	28	29	30
1	基礎的・基本的な学力の定着、向上	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○

重点的な取組事項－1		基礎的・基本的な学力の定着、向上	
A 今年度の成果目標		平成28年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
国語・算数の学習内容を定着させ、理解の程度を向上させる。		2科77.6%、国語75.7%、算数79.5%（平成27年度区平均値）	
B 前年度の取組み内容			
項目		具体的な方策	
西二タイム		①2月の学力テスト（当該学年の物を実施）とポートフォリオを基に、4月からさかのぼり指導を実施。 ②系統性が明確な算数を20時間、国語を10時間で実施。 ③3年生以上の算数を、習熟度別学習で進める。	
毎日の放課後の補習学習の設定		①学習の遅れが著しい児童を対象とし、週時程に位置づけ、毎日、30分行う。 ②専科教員がTTで入る。 ③低学年を中心とした保護者、地域のサポート	
		低学年30分、中学年40分、高学年50分の学習時間を設定し取り組ませる。	
小中連携		①全体会2回。分科会、授業研究、公開授業8回。 ②夏季休業中に10日間実施する。	
C 前年度の成果と課題			
〔成果〕 今年度4月の調査結果では、当初の目標値である2科74.5%、国語71.3%、算数77.8%（26年度区平均値）を上回ることができなかった。（通過率が2科71.5%、国語66.4%、算数76.6%であった。）12月の再テストでは、通過率が2科76.1%、国語75.7%、算数76.4%であり、2科計と国語は目標値を上回ることができた。			
〔課題〕 基礎的・基本的学習内容の定着が不十分な児童に対する指導が課題である。さらに個の実態に応じた指導の展開を図る必要がある。現状の取り組みでは、児童の実態の把握に課題がある。実態把握の方法を改善する。			
D 今年度の目標実現に向けた取組み			
項目		達成基準	具体的な方策
西二タイム（個別指導）の充実		個に応じた丁寧な指導を、年間30回実施する。	①2月に実施する区学力調査から作成する個人カルテに基づく指導。 ②系統性が明確な算数を20時間、国語を10時間で実施。 ③課題の多い学級に専科教員を配置し、複数の教員での指導。
毎日の放課後の補習学習		区小研等の日を除き、週5日実施する。	①区学力調査の目標値に達しない児童を対象として実施する。 ②課題の多い学級に専科教員を配置し複数の教員での指導 ③低学年を中心とした保護者、地域のサポート

家庭学習	児童の85%が目標時間を達成する	低学年30分、中学年40分、高学年50分の学習時間を設定し取り組ませる。
小中連携	①年間8回実施する。 ②サマースクールへの相互協力	①全体会2回。分科会、研究授業を各3回実施する。 ②夏季休業中に10日間実施する。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成		
A 今年度の成果目標		達成基準
思いやりのある優しい子の育成		学校評価アンケートで教員、児童、保護者、からのA B評価を88%以上にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
心の教育の充実	①いじめ（生命尊重）に関する授業を年3回実施する。 ②奇数学年での保育園との交流の充実	①いじめ防止強化月間（6月、11月、2月）に授業を実施する。 ②1年：学習体験、3年：保育園訪問、5年：給食体験・交流会
学校生活におけるきまりの定着	きまりに関わる取り組みを、児童の80%以上が実践する。	週目標の定量化を図り、主体的にきまりを守ろうとする児童を育成する。
学級活動の充実	児童の自発的・自治的活動を1.2時間以上確保する。	①話し合い活動に基づき、PDC（A）のサイクルにのっとった活動を行う。 ②OJTに学級活動を取り上げ、教員の指導力を高める。

重点的な取組事項－3 体力の向上		
A 今年度の成果目標		達成基準
運動することが好きな子を増やす。		運動遊びが楽しいとする子を、85%にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
日常的な体育的活動の充実、工夫・改善	1年間継続して体育的活動に取り組む。	朝マラソン…火曜・木曜の8時15分から5分間 西二ギネス…年間8回取り組む。
日常的な運動遊びの奨励	20分休み、昼休みにおける外遊びの奨励	学級担任が外遊びを働きかけると同時に、週番が休み時間に校内を見回り、外遊びを働きかける。
体育的活動の充実、工夫・改善	具体の活動での児童の肯定的な評価を70%にする。	①長縄跳び・短縄跳びの取り組みを、11月・1月に1ヶ月取り組む。 ②持久走記録会を中心としてマラソン旬間に取り組む。